

新潟市授業づくりサポート

ver. 2.1



左の二次元コードから、新潟市の
目指す授業づくりが分かる 10 分間の
動画を視聴できます。

この動画は各学校の全教職員の
授業改善をサポートするために作成
されました。

下の二次元コードから、「単元デザインシート」「振り返りシート」「新潟市の家庭学習」
の格納されている Google ドライブに繋がります。ご活用ください。



令和 8 年 2 月作成
新潟市教育委員会

新潟市の教職員の皆様へ

子どもたちの多様化や教職員の有り様も多様化してきています。これまで新潟市の先生方が大切にしてきた教職員の基本的な姿勢や子どもたちとの関わりについて、年齢や経験年数を問わず、これからも大切に指導にあたる内容について共有したいと考えています。そのことで、今後も全ての子どもたちが「先生方や仲間達と学び、過ごす学校が楽しい」と思える学校園の創造を切に願っています。

また、学習指導要領の告示から8年が経過しました。「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」により、更に推進することが求められています。教職員や学校園が、それぞれの実態に応じて授業を改善する手がかりとして、市教委の考えを提示します。

献身的で温かく、子どもを愛してやまない先生方が、この「授業づくりサポート」に目を通していただき、個人やチームで確認したり、考えたりするよりどころや、原点回帰のきっかけになれば幸いです。

新潟市が目指す教育

(1) 新潟市が目指す子どもの姿

人とかかわることを通し、
自ら判断・決定し、
夢や目標の実現に向かう姿

(2) 新潟市が目指す学校教育

「多様性」を前提とし、
全ての子どもたちの
「自分らしさ」が発揮され、
「可能性を引き出す」教育

新潟市が目指す授業のあり方

(1) 「可能性を引き出す」指導・支援の視点

これまでは、社会の要請により左側「これからも」が重視される傾向があり、過去には成果を上げることもありました。

社会も変化し、日々の授業や学校全体で、右側「これからは」の重要性が強調され、新潟市でもそれらを意識して学校教育を展開していきます。

これからも

先生主導

先生が決める

先生が教える

先生が評価

教師-児童生徒 中心

一斉一律 (同じことを同じペースで)

正解は一つ

よいか悪いか

画一的 (みんなが同じ姿)

失敗させない

Must/Should

これからは

子ども主導

子どもに委ねる

子どもが学び取る

子どもが評価

児童生徒-児童生徒 中心

個別化・個性化

正解はない

最適解・納得解

多様性 (みんなが違っていい)

Try and Error

May/Can

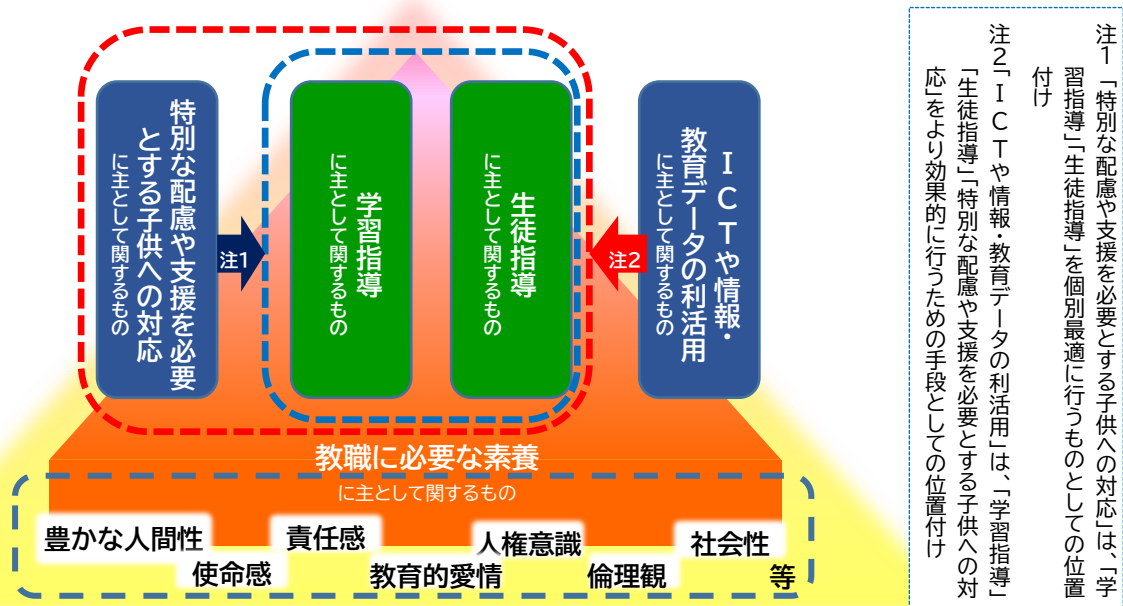
二項対立ではなく、目指す子どもの姿に願いを込めて「これからも」も大切にしながら、「これからは」の視点で、私たち教師が全ての子どもたちの可能性を引き出すために、柔軟で多様な指導方法で授業を展開していくことが大切です。

目次

I	教師の基本的な構え	1
II	信頼関係の構築のために	
1	児童生徒理解と信頼関係	2
2	子どもと関わる際に大切にしたいこと	4
3	信頼関係を築く「ほめる・認める（叱る）」	6
III	全ての子どもたちの成長を促すために	
1	生徒指導の目的	10
2	授業づくりと生徒指導の一体化	11
3	集団づくりの視点～支持的風土の醸成～	16
IV	全ての子どもたちの学びの保障に向けて	
1	UD（ユニバーサルデザイン）の視点	22
2	日々の授業での教授行動・授業技術	27
V	授業改善の視点	
1	主体的・対話的で深い学び	34
2	単元デザイン	35
3	授業づくりの要件	37
4	確かな学びの5つの要素	38
5	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	42
VI	情報活用能力の育成	
1	情報活用能力を育成する基本的な考え方	46
2	育成を目指す情報活用能力とは	47
3	情報活用能力を発揮しながら学ぶ自立した学習者のイメージ	48
4	情報モラルを高めている学習者のイメージ	49
5	情報スキル・プログラミング能力目標体系表	50
※	指導案の書き方	51

～国の参酌資料～

令和4年8月、国は教師に求められる資質能力について、指針に基づく具体的内容を定め、（１）教職に必要な素養、（２）学習指導、（３）生徒指導、（４）特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、（５）ICTや情報・教育データの利活用の５つに構造的に整理しました。（下図）



※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション(ファシリテーションの作用を含む)、連携協働などが横断的な要素として存在